

（様式6-A） A. 雑誌発表論文による学位申請の場合

橘 昌宏 氏から学位申請のため提出された論文の審査要旨

題 目

Does periodontitis affect the treatment response of biologics in the treatment of rheumatoid arthritis?

（歯周炎は関節リウマチの生物学的製剤治療反応性に影響を与えるか）

Arthritis Research & Therapy (2020) 22:178

Masahiro Tachibana, Yukio Yonemoto, Koichi Okamura, Takahito Suto, Hideo Sakane, Tetsuya Kaneko, Trang Thuy Dam, Chisa Okura, Tsuyoshi Tajika, Yoshito Tsushima and Hiroataka Chikuda

論文の要旨及び判定理由

関節リウマチと歯周炎とは臨床学的にも病理学的にも共通点が多く、歯周炎は関節リウマチの危険因子の一つと言われている。関節リウマチの患者には歯周炎が多く、またシトルリン化を介した病理的な関係でも共通点があると言われている。関節リウマチの重要な指標の一つに抗シトルリン化ペプチド抗体（ACPA）があるが、歯周炎の原因菌の一つであるPorphyromonas gingivalis菌が、シトルリン化を引き起こす唯一の菌であると知られており、歯周炎の状態とACPA価が相関していると言われている。

歯周炎の程度と関節リウマチの病勢との関係についてはまだ定まった見解は得られていない。また、関節リウマチの関節の評価でも歯周炎の程度の評価でも、FDG-PET/CTが有用であるとの報告があり、本研究では、FDG-PET/CTを用いて歯周炎の程度と関節リウマチの生物学的製剤治療の治療反応性との関連を調べた。歯周へのFDG集積及び関節リウマチの指標、治療による変化との相関を解析し、歯周へのFDG集積と関節リウマチ治療反応性について負の相関をみとめた。歯周炎が重度であれば関節リウマチの治療が妨げられることが示唆され、今後の関節リウマチの治療の改善につながる可能性を示したことが認められ、博士（医学）の学位に値するものと判定した。

（令和2年12月21日）

審査委員

主査	群馬大学教授（医学系研究科） 腎臓・リウマチ内科学分野担任	廣村 桂樹	印
副査	群馬大学教授（医学系研究科） 眼科学分野担任	秋山 英雄	印
副査	群馬大学教授（医学系研究科） 皮膚科学分野担任	茂木精一郎	印

（様式6， 2頁目）

最終試験の結果の要旨

関節リウマチの関節外症状について、および歯周炎と他の疾患との関連について  
試問し満足すべき解答を得た。

（令和2年12月21日）

試験委員

群馬大学教授（医学系研究科） 整形外科学分野担任	筑田 博隆	印
群馬大学教授（医学系研究科） 放射線診断核医学分野担任	対馬 義人	印

試験科目

主専攻分野	整形外科学	A
副専攻分野	放射線診断核医学	A